

令和2年度 事業報告

1. 奨学事業

(1) 令和2年度 奨学生人数及び支給額

	当期実績		前期実績		当期計画	
	人数(内、新規)	支給額※	人数	支給額	人数	支給額
高校奨学生	93人(43人)	25,140千円	83人	19,800千円	91人	21,840千円
大学奨学生	16人(5人)	9,600千円	17人	10,200千円	18人	10,800千円
計	109人(48人)	34,740千円	100人	30,000千円	109人	32,640千円

※高校奨学生の内1名は、退学により半年分の奨学金(120千円)を支給停止。

4月に、コロナ禍等による学費への影響を配慮し、前年度から継続して奨学金を給付している奨学生62名に対しアンケートを実施しました。

結果として、約3割の奨学生がコロナ禍による影響があるとの回答があった為、更なる影響拡大も配慮し、継続高校奨学生全員(49名)に1人年額60千円を追加支給しました。なお、大学奨学生には文部科学省による「学生支援緊急給付金」制度との併給を案内し、追加支給は行いませんでした。

(2) 奨学生募集及び選考状況

	募集対象	募集先	募集時期	募集人数	応募者人数	選考委員会開催日	選考人数
令和2年度 高校奨学生	高校 2,3年生	県内高校 137校	R2.4.5~ R2.5.30	10人	31人	R2.6.16	12人※
令和3年度 高校奨学生	中学 3年生	県内中学 293校	R2.9.12~ R2.10.31	30人	53人	R2.11.17	30人※
令和3年度 大学奨学生	高校3年生 高専5年生	県内高校及び 高等専門学校	R2.12.3~ R3.1.31	5人	29人	R3.2.16	5人

※選外となった高校2,3年生19名並びに中学3年生23名には図書カードを支給。

高校2,3年生を対象とした令和2年度高校奨学生の募集は、コロナ禍による困窮家庭の増加や休校措置を配慮し、募集締め切りを当初の予定より1か月延長しました。

(3) 授与式・懇親会について

当期は感染状況を勘案し、8月19日にスズキ歴史館ウエルカムホールにて、参加者を静岡県西部地区の奨学生に限定し、授与式のみ開催しました。また、当日の様子はビデオ撮影し、参加できなかった新規奨学生に公開しました。

《参加者》 高校奨学生、大学奨学生、財団関係者 計17名

(4) 令和2年度卒業生

卒業生の人数と進路

	大学 進学	専門学校 進学	就 職	大学院 進学	進学 準備	進 級	計
高校卒業生	22人	1人	4人	—	1人	—	28人
大学卒業生	—	0人	1人	1人	—	1人	3人

なお、高校奨学生には、当財団から理事長名の「祝詞（しゅくし）」と図書カード(5千円/人)を贈りました。

(5) 静岡文化芸術大学奨学金補助

静岡県内の大学に在学する学生で向学心のある者に対する支援として、スズキ株式会社が一層の向学心向上を奨励し、成績優秀な学生の修学環境を整備することを目的として創設した「静岡文化芸術大学スズキ奨学基金」が支給する奨学金の一部として150万円を補助しました。

《スズキ奨学基金令和1年度奨学金支給額》

270万円 = 30万円/年 × 9名（学部3年生7名、大学院2年生2名）

2. 外国人学校支援事業

外国人就労者の子どもたちの学習環境を整えるため、浜松市西区雄踏町にある外国人学校の「ムンド・デ・アレグリア学校」の運営状況を勘案し、令和2年度は300万円の資金援助を行いました。平成18年より引き受けている1億円（利率0.1%、期間3年）の学校債も継続保有しています。

3. 特別支援学校支援事業

障害のある子どもたちが、スポーツや学習活動を通じてあらゆる可能性を見いだせるよう、静岡県内 21 校の特別支援学校 PTA に対し、児童・生徒が使用する物品 22 品(総額 1,745 万円、工事費等含む)を寄贈しました。

募集期間 : 令和 2 年 7 月 1 日から令和 2 年 9 月 30 日

選考委員会 : 令和 2 年 10 月 16 日

地区別応募校数と寄贈校数 :

	東部	中部	西部	計
学校数	14 校	11 校	13 校	38 校
応募校数	8 校	4 校	10 校	22 校
寄贈校数	8 校	4 校	9 校	21 校

なお、2 月に開催を予定していた「寄贈式」は、感染症の再拡大により開催を見合わせましたが、遊具を寄贈した静岡北特別支援学校において「遊具完成披露の会」を開催していただきました。当日の様子は、財団ホームページの他、静岡新聞(中部版)や教育新聞にも紹介されました。

また、前年度に物品を寄贈した学校には、一年間の物品の使用状況を報告していただき、「寄贈物品使用状況報告書」としてまとめ、県内すべての特別支援学校に配布しました。

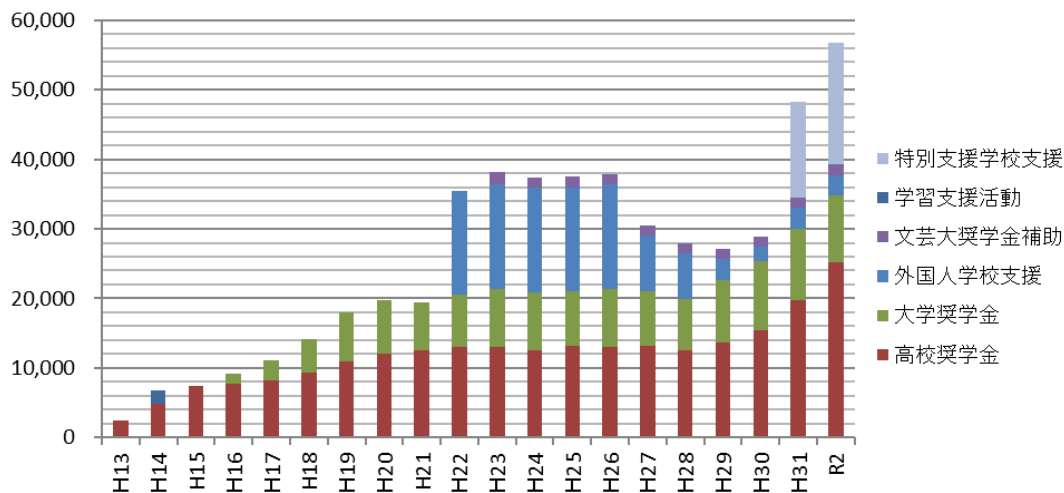
4. 財団広報活動

財団創立 20 周年を機に、これまでの奨学生に対し現況調査を実施しました。また、この調査等をもとに「創立 20 周年記念誌」並びに「創立 20 周年記念誌・簡易版」を作成し、奨学生や関係先に配布しました。

以上

《参考：年度別助成実績》

(単位:千円)



令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので附属明細書は作成しません。

令和3年4月

公益財団法人 スズキ教育文化財団